

## 同窓生シリーズ

第90回

48回生

藤本 貴之

Takayuki Fujimoto



東洋大学 総合情報学部 准教授/博士 (学術)

東洋大学 総合情報学部 総合情報学科/東洋大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻 / (メディア構造論/情報デザイン)

略歴/1976年生まれ。東洋大学 総合情報学部・准教授、北陸先端科学技術大学院大学・客員准教授、合同会社 藤本情報デザイン事務所・執行役員、株式会社 ウィズダムウェブ・代表取締役、株式会社 麻布書院・顧問、メディアニュース「メディアゴン」チーフエディター、日本グラフィックデザイナー協会・正会員。著書に『だからデザイナーは炎上する』(中公新書ラクレ)、『情報デザインの想像力—イメージの史学』(プレアデス出版) など。

Website <http://www.fujimotokyo.com/>Twitter <http://goo.gl/pt2T1>Facebook <http://goo.gl/d5RGz>

## IT時代を予見し、文系から理系へ 大学で情報デザインの研究職に

### 新宿区にある高校、というのが決め手

世田谷区深沢で育ちましたが、新宿区の高校に通いたいという思いがあり、また、専科の科目が得意で内申もよかったです。私立を受験せず新宿高校しか受けませんでした。青山高校もいいなと思ったのですが、カフェのコーヒが高そうなイメージとか、自分とは違う気がしたんです。正直な話、中1の頃から新宿高校しか受ける気がなかったんです。今では、同級生たちとも「ここがよかった」と言っていますし、自分でもそう思っています。

高校時代は、料理研究部と軽音楽部を兼部していました。料理研究部は女性3人くらいの部活だったので男2、3人で入部。テレビでやってた「料理選手権」という番組に出た記憶がありますね。番組に応募したところ、学校を通して合格通知が届きました。番組では何を作ったか覚えていませんが、「男がエンタリーした」というもの珍しさから選ばれたのだと思います。

軽音部については当時、空前の打ち込みブームで、コンピュータで打ち込みしたデジタル系の音楽をやっていましたね。あの頃の新宿高校界隈にはCDショップが何軒もあり、どの店も洋盤(洋楽)中心。邦楽は近所のおもちゃ屋や、自宅の近くなどにある「〇〇堂」といった、昔ながらのレコード店の扱いでしたしね。朝陽祭(文化祭)は、今みたいにちゃんとした学校祭らしいものではなかったですね。当時、会場は学校と世田谷区民会館の2カ所。前夜祭は校庭でやりましたが、会場が2カ所に分かれていたし、盛り上がりは欠けていましたね。場所がなかったから、でしょうけど。そういうえば、僕の在学中は陸上部もなく、部活も盛り上がり欠ける部分があったかもしれません。

### 卒業後も強くなぐましく新宿高生

現在の勤務先、東洋大学の同僚にたまに、新宿高校で同級生だった女性がいます。当時は学校近くの猥雑なエリアに座り込んで弁当を食べるなど、一緒につるんでいた、僕と同じく「ダメな」部類の人間(笑)。彼女はロンドン大を含め、3つの大学を卒業し、今は大学で教えているのですが、資格マニアで宅建資格も持っていて、「もしも大学が潰れたら不動産屋をやろうかな」と言っています。職場をクビになっても生きていけると思えば、強気に出られるんですね。

当時は日東駒専(日大、東洋大、駒澤大、専修大)への合格が、今より難しかった時代。新宿高校では留年している人も珍しくなく、また浪人生も多く、そういった仲間と早稲田大学入学生後の追試でよく顔を合わせました。今になって振り返ってみれば、特に成績がよかったわけではない人も、各方面でたくましく生きていく、というのが新宿高生の特徴かもしれません。

### 文系で大学進学し、大学院から理系へ

大学は早稲田しか行くつもりがなく、学部は特にこだわらず、合格の結果の出るのが早かった教育学部を選択。社会教育を専攻していたのですが、卒業間近になって、ゼミの先生から「これからは教育系よりコンピュータ関連のほうがいいよ」と言われ、大学院から理転しました。そのような経緯もあり、個人的には「文系」「理系」に固執しすぎないほうがいいと思っています。

自分自身について思うのは、高校時代に留学しておけばよかったということ。研究の場では英語がスタンダードで、日本語の価値がなくなってきました。情報の鮮度や伝達スピードが、日本語に翻訳しては遅すぎる。であれば、英語で授業をしたほうが、タイムラグがないだろうと思います。高校時

代から英語で授業したほうがいいし、そうすれば生徒は英語をツールとして使えるようになる。授業の半分くらいは英語でやったほうがいいのではないかと思います。

### 現在の成績や経済力だけで将来を決めないで

大学の英語化はどんどん進んでいて、東洋大でも著しく変化しています。1年ごとに英語化が進み、大学院に関してはその場にひとりでも外国人がいれば、英語対応が当たり前になっています。また、日本の大学はスーパーグローバル大学※に指定されるかどうか、経営においても重視されるようになるはず。東洋大は指定校に選ばれ、大学レベルも受験者数もぐんと伸びました。正直、これからはスーパーグローバル大学以外へは行く意味がないとさえ、僕は思っています。それに、学費が上がったとしても、優秀であれば奨学金をもらって大学院に進んだり、留学したり、方法はいろいろあります。留学などはお金を理由に諦めないほうがいい。実際、僕も奨学金をもらって大学院に行きましたし、奨学金返済に関しても全額免除でした。

在校生のみなさんに言いたいのは、現在の学力や家庭の経済力だけで進学先を決めるのはどうか、ということ。高校時代、クラスで下から1、2番の成績だった僕でも、予備校などに通わずとも、浪人すれば早稲田に受かりましたし、奨学金などで留学したり、大学院へ進んだりという道もあります。それ以外に、大学進学後にアルバイトでお金を貯めて、休暇中に海外へ行くのもいいし、いろいろ体験して視野を広げてください。そのためにも英語はできたほうがいいし、英語だけでもひたすら勉強してください。ちなみに、僕の夢は昔から今に至るまで宇宙飛行士です。冗談のように思う人も多いのですが、今はそういう挑戦もできる時代であることを忘れないでほしいです。



(上) 高校卒業後、伝統的な祭り「インドラジャトラ」に参加するために訪れたネパールにて。(下) 藤本氏による著書(の一部)